

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- 中国、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- 中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- 中国で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

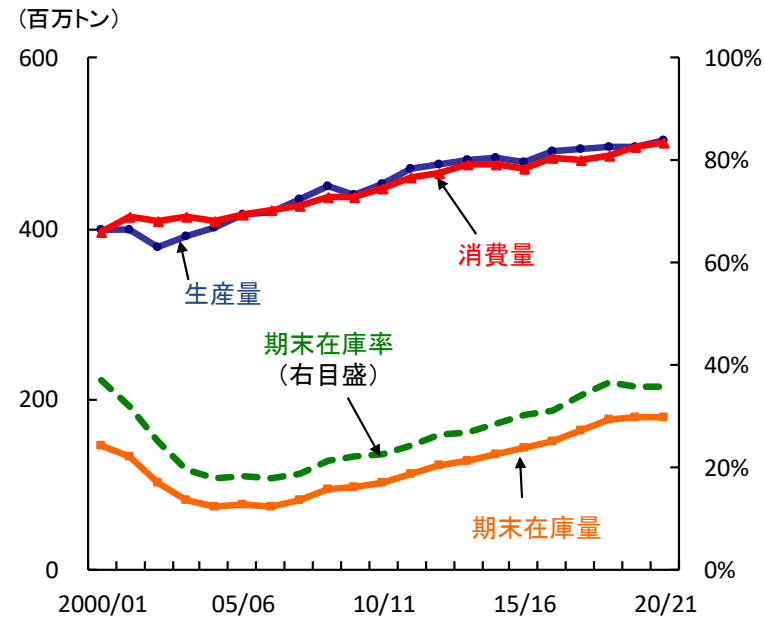
期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

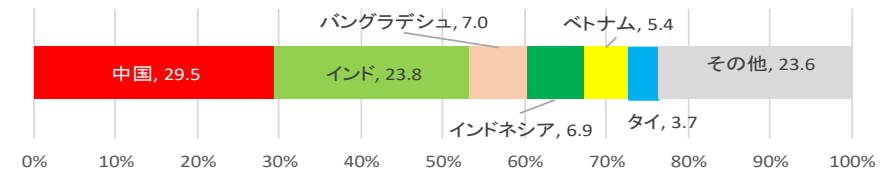
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.3	496.4	503.2	2.0	1.4
消 費 量	484.7	495.0	502.0	1.5	1.4
輸 出 量	43.9	42.7	45.4	0.1	6.3
輸 入 量	44.0	42.3	43.0	0.4	1.7
期末在庫量	176.9	178.3	179.5	0.5	0.7
期末在庫率	36.5%	36.0%	35.8%	▲ 0.0	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 January 2021)

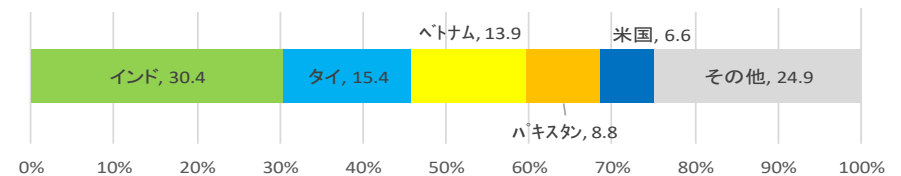


資料：USDA「PS&D」(2020.1.12)をもとに農林水産省にて作成

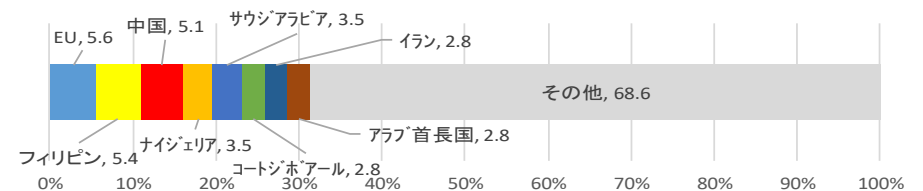
○ 2020/21年度 世界のコメの生産量（503.2 百万トン）（単位：%）



○ 2020/21年度 世界のコメの輸出量(45.4 百万トン)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸入量(43.0 百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測から単収の引き上げにより 0.1 百万トン上方修正され、対前年度比 23.0%増の史上第 3 位となる 7.2 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 25%を占める。

【貿易情報・その他】USDA によれば、消費量は 8 月～11 月の消費実績の増加により 0.5 百万トン上方修正され、対前年度 10.7%増の 5.1 百万トンの見込み。輸出量は、輸出ペースの低下が継続していることから、前月予測からわずかに下方修正され、前年度並の 3.0 百万トンの見込み。輸入量は、中・短粒種の輸入量が減少したことからわずかに下方修正され、対前年度比 3.4%減の 1.2 百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、モンスーンの降雨に恵まれ、前月予測から変更はなく、対前年度 1.3%増の 120.0 百万トンの見込み。

インド東部・南部では、ラビ米の育苗期から初期栄養期を迎えており、1 月 8 日時点の作付済み面積は 18.8 百万ヘクタールと前年同期比 2.7%増となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、対前年度比 0.2%増の 106.0 百万トンの見込み。

USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、洪水被害のあったバングラデシュ向け輸出増加により、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、対前年度比 10.5%増の 13.8 百万トンとなる見込み。インド産米は輸出余力があり、他のアジア諸国と比べて安価である。インド商工省によれば、2020 年 4 月から 10 月の輸出量累計は 887 万トンで前年同期（487 万トン）と比べ 1.8 倍。輸出量のうち 274 万トンが高級品質のバスマティ米で、612 万トンが非バスマティ米である。輸出量は、前年度対比でバスマティ米、非バスマティ米とも増加しているが、非バスマティ米の伸びが大きく、2019 年の実績 503 万トンを上回った。1 月には、ベトナム向けに碎米を 7 万トン輸出する契約が成立した。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	5.9	7.2	0.1	23.0
消 費 量	4.6	4.6	5.1	0.5	10.7
輸 出 量	3.0	3.0	3.0	▲ 0.0	-
輸 入 量	0.9	1.2	1.2	▲ 0.0	▲ 3.4
期末在庫量	1.4	0.9	1.2	▲ 0.4	34.1
期末在庫率	18.8%	12.0%	15.1%	▲ 6.0	3.1

（参考）

収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.21	-	21.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.54	0.06	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.5	118.4	120.0 (120.0)	-	1.3
消 費 量	99.2	105.7	106.0 (105.3)	-	0.2
輸 出 量	10.4	12.5	13.8 (14.1)	0.3	10.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	29.7	29.9 (28.6)	▲ 0.3	0.7
期末在庫率	26.9%	25.1%	25.0% (24.0%)	▲ 0.3	▲ 0.2

（参考）

収穫面積(百万ha)	44.16	43.78	44.50 (44.35)	-	1.6
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.05 (2.71)	-	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC「Grain Market Report (14 January 2021)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、国家統計局の生産量データを反映し収穫面積を引き上げたため、前月予測からの1.3百万トン上方修正され、対前年度比1.1%増の148.3百万トンの見込み。

中国国家统计局の「2020全国糧食生産量データ」（2020.12.10）によれば、コメ（もみベース）の生産量は、前年度比1.1%増の211.9百万トンとなっている。洪水等の影響で単収は減少となったものの、政府の助成政策により作付面積が増加したのが要因。

USDA によれば、2020/21年度の消費量は、前月予測から1.0 百万トン上方修正され、対前年度比1.6%増の147.5百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、とうもろこしの価格の高騰に伴い、引き続き、コメの飼料用需要が増加している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比3.8%減の2.5百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（12月）によれば、12月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格（精米）は、それぞれ3,800 元/トン（11月3,780 元/トン）、4,200 元/トン（同4,200 元/トン）、4,400 元/トン（同4,200 元/トン）。

インディカ米の価格は、買付価格が上昇したためわずかに上昇し、ジャポニカ米の価格は、中国南部での春節向けの需要増から上昇している。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	148.5	146.7	148.3 (148.3)	1.3	1.1	
消 費 量	142.9	145.2	147.5 (147.5)	1.0	1.6	
輸 出 量	2.8	2.6	2.5 (2.8)	▲ 0.2	▲ 3.8	
輸 入 量	3.2	2.6	2.2 (2.2)	-	▲ 15.4	
期末在庫量	115.0	116.5	117.0 (112.6)	0.5	0.4	
期末在庫率	78.9%	78.8%	78.0% (74.9%)	▲ 0.1	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	30.08 (30.15)	0.28	1.3	
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.04 (4.92)	▲ 0.01	▲ 0.3	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC「Grain Market Report (14 January 2020)」(単収は精米t/ha)

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、2019/20年度(2020年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.7百万トンと干ばつの影響で2018/19年度を12.3%下回る見込み。

2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.3%増の18.6百万トンの見込み。

2020年の雨季米の収穫は、前年12月下旬には北部から東北地方にかけて終盤を迎えている。中部でも収穫が進展しているが、作付遅れのため例年より遅れている。

農業経済局によれば、2020年の雨季作の生産量は、作付面積、単収とも増加することから前年度より6.1%増の25.5百万もみトンとなっている。

2021年に収穫される乾季米の作付けが進展している。乾季米はタイのコメ生産量の2割程度のシェアを占めてきたが、タイ政府によると乾季の長期化や水不足から、乾季米の作付面積・生産量は4割程度減少すると見ている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、5.5百万トンの見込み。

タイ米輸出協会によれば、2020年1月から11月までの輸出量は、前年度から26.3%減少の448.6万トン。輸出先国は、南アフリカ(64.3万トン)、米国(61.9万トン)、ベナン(42.0万トン)の順で、高品質の香り米を中心に米国、シンガポール等への輸出量が増加し、ベナン、カメルーン、セネガル等、西アフリカ向けが減少している。タイ商務省によれば、コンテナ船の不足により、タイの11月のコメ輸出量は前年同月と比べて28%減となっている。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対年度比27.3%増の7.0百万トンの見込み。

1月に入り、タイ産米とベトナム産米の輸出価格は双方とも上昇している(右図参照)。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

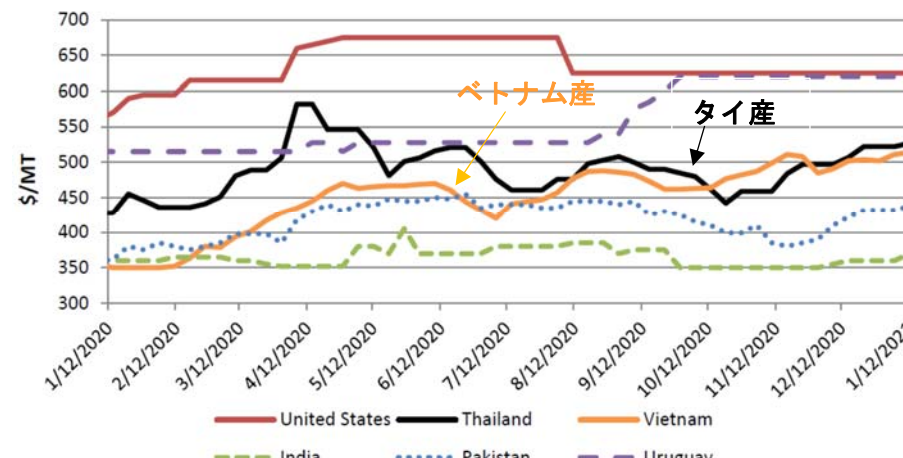
(単位: 百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.3	17.7	18.6 (18.7)	-	5.3	
消費量	11.8	12.0	12.0 (11.7)	-	-	
輸出量	7.6	5.5	7.0 (7.7)	-	27.3	
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲ 20.0	
期末在庫量	4.2	4.6	4.4 (4.9)	-	▲ 4.3	
期末在庫率	21.9%	26.5%	23.4% (25.2%)	-	▲ 3.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.83	9.89	10.30 (10.30)	-	4.1	
単収(もみt/ha)	2.85	2.70	2.74 (1.82)	-	1.5	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC「Grain Market Report (14 January 2020)」(単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移

1月に入り、タイ産とベトナム産の価格が双方上昇



資料: USDA「Grain: Markets and Trade」(2021.1.12)

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、現在生産が行われている2019/20年度(2020年1月～2020年12月)の生産予測は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、27.1百万トンの見込み。

ベトナム統計局の2020年12月27日付け報告によると、2020年のコメの作付面積は前年同時期と比較して19万ヘクタール少ない728万ヘクタール、収量は前年比0.05トン／ヘクタール増の5.87トン／ヘクタール、収穫量は前年よりも81万トン少ない4,269万トン（もみベース）になる見込み。

現在、ベトナム北部の红河デルタで雨季作の収穫が終了し、冬春作の作付が開始。南部のメコンデルタで秋冬作の生産が行われている。同上のベトナム統計局の報告（雨季作、秋冬作）及び作物保護局の1月3日付け報告（冬春作）によれば、作季別の生育状況等は以下の通り。

《雨季作》

収穫が終了した。成長期に天候に恵まれ、単収は前年度並の5.1トン／ヘクタールとなるものの、作付面積が1.6%減少し1.6百万ヘクタールとなったことから、生産量は前年度よりわずかに少ない808万トンとなる見込み。

《秋冬作》

メコンデルタの秋冬作の作付面積は前年度並72.4万ヘクタールである。単収は前年度並の5.51トン／ヘクタール、生産量は前年度よりわずかに増加の399万トン程度になると見込まれている。

《冬春作》

冬春作の作付面積は2020年末現在、143.6万ヘクタールであり、地方当局が気象予測等に応じて播種の時期を調整しているため前年よりも遅れている。USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測から0.1百万トン上方修正され、27.1百万トンの見込み。【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、6.1百万トンの見込み。また、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.3%増の6.3百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2020年の年間のコメの累計輸出量は対前年度比98.1%の6.25百万トン。輸出先国別にみると、フィリピンが最も多くシェアが3割以上を占め、以下中国、マレーシアの順。中国、ガーナ等への輸出量が前年度に比べ増加した。

なお、ベトナムのコメの価格は9年間で最高となっているため、1月に入り、飼料用向けに安価なインド産碎米7万トンを買付けた。

コメーベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.3	27.1	27.1 (28.2)	0.1	-	
消費量	21.2	21.3	21.3 (22.8)	0.1	0.2	
輸 出 量	6.6	6.1	6.3 (6.4)	-	3.3	
輸 入 量	0.5	0.4	0.5 (0.6)	0.1	25.0	
期末在庫量	1.1	1.3	1.3 (2.9)	0.2	-	
期末在庫率	4.0%	4.6%	4.5% (9.8%)	0.7	▲ 0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.54	7.38	7.39 (7.47)	▲ 0.01	0.1	
単収(もみt/ha)	5.80	5.88	5.87 (3.78)	0.03	▲ 0.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC「Grain Market Report (14 January 2021)」(単収は精米t/ha)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国で上方修正も、アルゼンチン、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

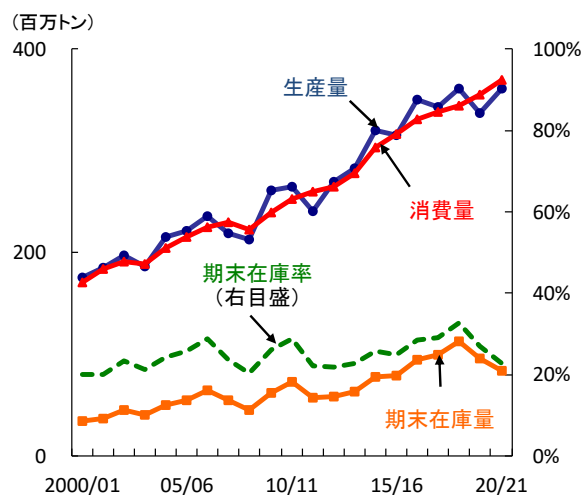
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウルグアイで下方修正も、米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



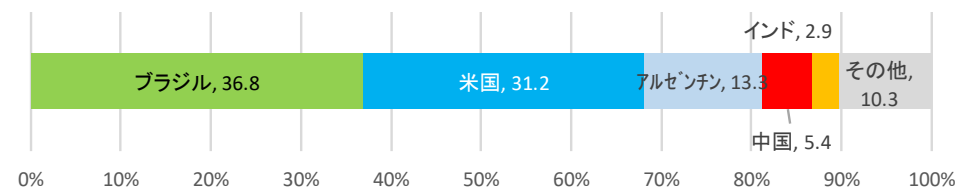
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

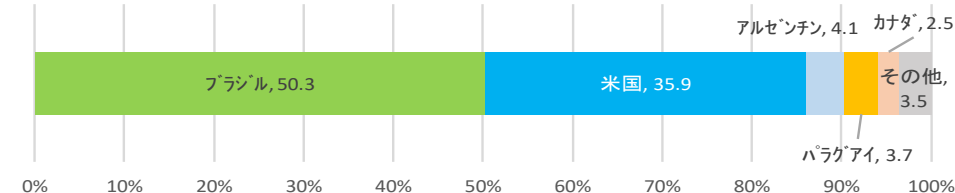
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	361.0	336.5	361.0	▲ 1.1	7.3
消 費 量	343.8	354.6	369.8	0.1	4.3
うち搾油用	298.1	309.4	321.8	0.2	4.0
輸 出 量	148.8	164.7	169.1	0.6	2.7
輸 入 量	145.5	165.4	166.8	0.5	0.9
期末在庫量	112.8	95.4	84.3	▲ 1.3	▲ 11.6
期末在庫率	32.8%	26.9%	22.8%	▲ 0.4	▲ 4.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 January 2021）

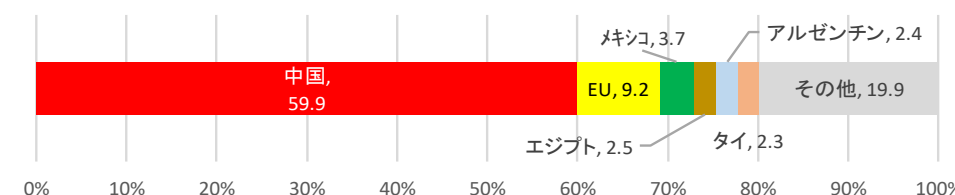
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (361.0 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (169.1 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (166.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、主に単収がミネソタ州、アイオワ州、カンザス州で下方修正されたことから前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度より 16.4%増の 112.6 百万トンの見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースではほぼ終了した。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、搾油用消費は上方修正された一方、生産量の下方修正に伴い、その他消費がより下方修正されたことから前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、前年度より 2.5%増の 63.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、中国を中心とする旺盛な輸入需要により前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、前年度より 32.6%増の 60.7 百万トンと史上最高の見込み。なお、輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～12 月 31 日）は、61.5 百万トンであり、内訳は中国（34.0 百万トン）、メキシコ（4.5 百万トン）、エジプト（4.0 百万トン）の順。12 月の輸出検証高では、計 9.3 百万トンのうち、中国が 5.8 百万トンと第 1 位の輸出国となっている。

2020/21 年度の実在庫量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度より 73.4%減の 3.8 百万トンで、2013/14 年度以来 7 年ぶりの最低水準の見込み。

大豆－米国

(単位：百万トン)

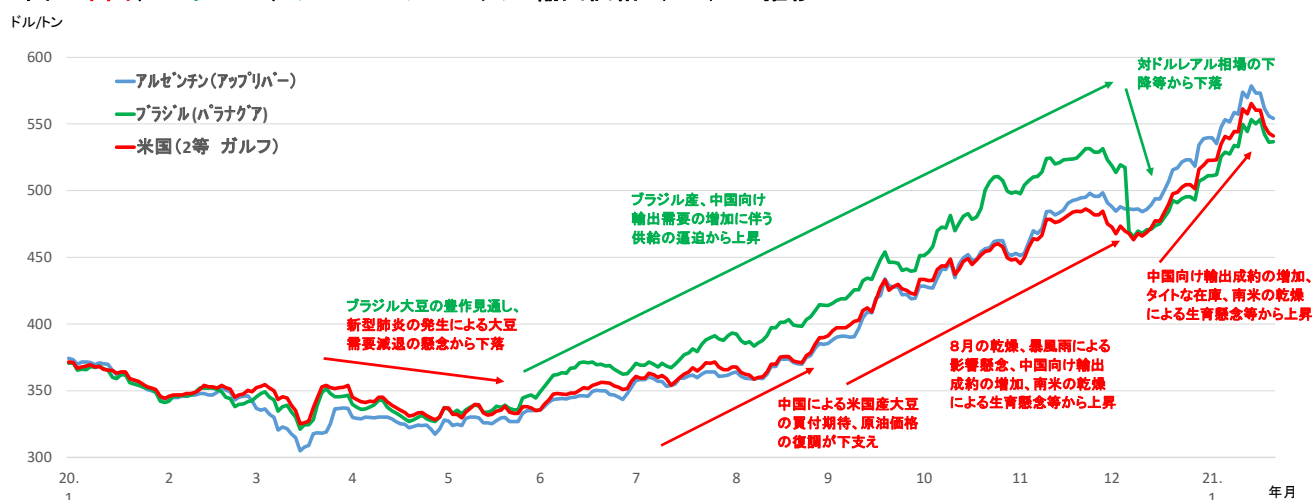
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	120.5	96.7	112.6	▲ 1.0	16.4
消 費 量	60.4	61.8	63.3	▲ 0.2	2.5
うち搾油用	56.9	58.9	59.9	0.1	1.6
輸 出 量	47.7	45.8	60.7	0.8	32.6
輸 入 量	0.4	0.4	1.0	0.5	126.2
期末在庫量	24.7	14.3	3.8	▲ 1.0	▲ 73.4
期末在庫率	22.9%	13.3%	3.1%	▲ 0.8	▲ 10.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.31	0.01	9.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.38	▲ 0.03	6.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.6%増の 133.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

1 月上旬から中旬にかけてブラジル中部及び南部の大半の主産地で降雨があり、大豆を始めとする主な夏作物が必要とする適量の土壌水分量が保たれた。しかし、南部の一部では乾燥が続く、より多くの降水量が必要とされている。南部のリオグランデドスル州では、1 月 14 日現在で 31%が開花期となっている。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告 (2021.1.13) によれば、生産量は、前年度より 7.1%増の 133.7 百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 3.4%増の 48.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より 7.7%減の 85.0 百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第 1 位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、中国の旺盛な輸入需要により 2020 年 1～12 月の輸出量は 83.0 百万トンで、前年同期比 12%増となっている。内訳は、中国が 1 位で 60.6 百万トンと全体の 73%を占めている。2 月に収穫最盛期を迎える新穀の供給を待つ新たな輸出が行われるとみられる。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021 年 2 月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデス州等												収穫 23.9(百万t)								
	作付 4.2(百万ha)												収穫夏冬計 102.3百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.5百万ha												作付 14.3(百万ha)								
	マトグロッソ州、パラナ州等												収穫 78.4(百万t)								
大豆	作付 38.2(百万ha)												収穫 133.7(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2021.1.13)

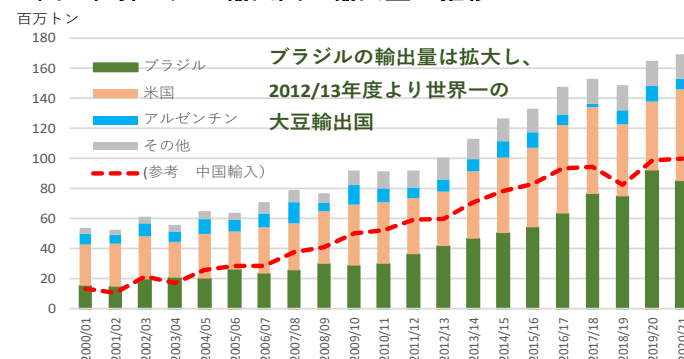
大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	119.7	126.0	133.0 (129.0)	-	5.6
消 費 量	45.2	46.5	48.1 (・・・)	-	3.4
うち搾油用	42.5	44.3	45.5 (・・・)	-	2.8
輸 出 量	74.9	92.1	85.0 (・・・)	-	▲ 7.7
輸 入 量	0.1	0.6	0.4 (・・・)	-	▲ 27.3
期末在庫量	32.5	20.4	20.7 (・・・)	-	1.5
期末在庫率	27.0%	14.7%	15.6% (・・・)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.60 (40.00)	-	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.41	3.45 (3.23)	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(15 January 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.1.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前年12月から1月上旬にかけてのラニーニャ現象に伴う乾燥天候の影響で単収が下方修正されたことから、前月予測から2.0百万トン下方修正され、前年度より1.6%減の48.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所(2021.1.21)によれば、作付進捗率は99%で、過去5か年平均に比べ1ポイント遅い。主に、北部地域の作付けが1月中に終了する見込み。最近の降雨により主産地の北部の土壌水分状況が改善したが、ラパンパ州北部、ブエノスアイレス州西部、エントレリオス州中東部では更なる降雨が必要。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.9%増の46.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争の激化から、前年度より29.8%減の7.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1～11月の輸出量は6.8百万トンで、前年同期より31.1%減。内訳は、1位が中国5.4百万トン(81%)、2位がエジプト57万トン(9%)となっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国であるが、最近是国内需要の伸びに伴い、輸出量は減少している。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から最大33%へ引き上げた。その後、2020年10月1日に外貨準備高の増加を促進する目的で大豆関連商品の輸出税率の一時的な引き下げを発表した。大豆の輸出税は、10月は30%に引き下げられたものの、11月に31.5%、12月に32%に引き上げ、2021年1月には再び33%に戻った。

大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.3	48.8	48.0 (45.6)	▲ 2.0	▲ 1.6
消費量	47.5	45.8	46.2 (…)	-	0.9
うち搾油用	40.6	38.8	39.0 (…)	-	0.6
輸出量	9.1	10.0	7.0 (…)	-	▲ 29.8
輸入量	6.4	4.9	4.0 (…)	-	▲ 18.0
期末在庫量	28.9	26.8	25.6 (…)	▲ 2.0	▲ 4.5
期末在庫率	51.1%	48.1%	48.1% (…)	▲ 3.8	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	16.70	16.70 (16.30)	-	-
単収(t/ha)	3.33	2.92	2.87 (2.80)	▲ 0.12	▲ 1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(15 January 2021)

写真：北部サンタフェ州の大豆圃場の風景

(1月4日撮影)

前年10月後半に作付けされ、作付期から降雨が少なかったにも関わらず、作柄は良好。

現在の生育ステージは開花盛期～乳熟期。

収穫作業は3月下旬の予定。



< 中国 >

【生産・生育状況】

USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、中国国家统计局データに基づき、主産地の東北部で生育期の天候に恵まれたことから収穫面積及び単収が上方修正されたことから、前月予測から 2.1 百万トン上方修正され、前年度より 8.3%増の 19.6 百万トンの見込み。前年 11 月上旬時点で、収穫はすでに終了した。

【需給動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、食用需要が前月予測から 0.3 百万トン上方修正された一方、アフリカ豚熱の甚大な影響から養豚産業が回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから、前年度より 7.8%増の 117.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前年度より 1.5%増の 100.0 百万トンで史上最高の見込み。

中国財政部は、2020 年 2 月 14 日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税 30%のうち、2019 年 9 月追加分の 5 %分を半減させ、追加関税を 27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2 月 18 日、1 年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～11 月の輸入量は 92.8 百万トンと、前年同期比で 17%増。内訳は、ブラジル産 63.1 百万トン（68%）、米国産 20.1 百万トン（22%）。なお、11 月の輸入量は、米国産（6.0 百万トン）がブラジル産（2.7 百万トン）の 2 倍以上となった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 12 月号」によると、一部の貿易商の市場価格の上昇に対する期待が弱まり、かつ大豆農家と貿易商は、年末を迎え、資金回収に急いで売り惜しみ意欲が弱まり、市場供給が増加し、大豆加工企業の需要が一部満たされ、国内大豆価格は安定したもの、12 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は上昇し、5,720 元／トンで依然高水準である。一方、12 月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）も 3,840 元／トンと前月からわずかに上昇した。

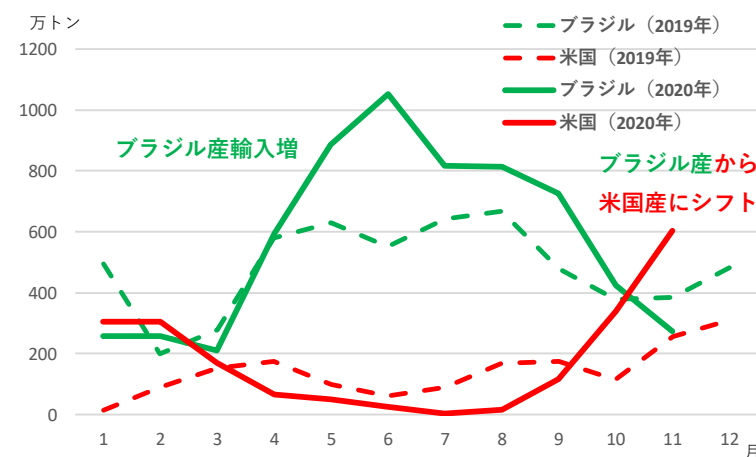
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はOil.W		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	19.6	(18.1)	2.1	8.3
消 費 量	102.0	109.2	117.7	(...)	0.3	7.8
うち搾油用	85.0	91.5	99.0	(...)	-	8.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1	(...)	-	11.1
輸 入 量	82.5	98.5	100.0	(...)	-	1.5
期末在庫量	19.5	26.8	28.6	(...)	1.8	6.7
期末在庫率	19.1%	24.5%	24.3%	(...)	1.5	▲ 0.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.87	(9.45)	0.57	6.1
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.99	(1.92)	0.11	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(15 January 2021)

図：中国におけるブラジル・米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積は前年度より減少したものの、生育期の天候に恵まれ、単収は前年度より上昇したことから前年度より3.3%増の6.4百万トンの見込み。前年9月から10月にかけての温暖で乾燥した天候により、前年度より早く収穫が開始され、11月中旬時点で、ほぼ終了した。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より18.8%増の2.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.5%増の4.2百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2020/21年度（2020年8月～2021年7月）の2020年8月から11月までの輸出量は195.2万トンで、国別では、イラン（37.7万トン）、イタリア（26.5万トン）、アルジェリア（21.9万トン）の順。

大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.4	6.1	6.4 (6.4)	-	3.3
消費量	3.3	2.5	2.9 (2.5)	-	18.8
うち搾油用	2.1	1.7	2.0 (1.9)	-	14.8
輸 出 量	5.3	3.9	4.2 (4.4)	-	7.5
輸 入 量	1.2	0.3	0.6 (0.4)	-	109.1
期末在庫量	0.7	0.7	0.5 (0.6)	-	▲ 34.1
期末在庫率	8.2%	11.3%	6.6% (8.7%)	-	▲ 4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.27	2.04 (2.04)	-	▲ 10.1
単収(t/ha)	2.92	2.71	3.11 (3.12)	-	14.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 January 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 December 2020)

写真：カナダ西部の大豆収穫後の貯蔵風景
(1月12日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 1 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しましたが、USDAのレポートではEUに含まれていることから、当面、EUに含めて取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
	TEL：03-6744-2376（直通）
	FAX：03-6744-2396